

景気景況調査報告

(第1回)

平成28年1～3月期 実績
平成28年4～6月期 見通し

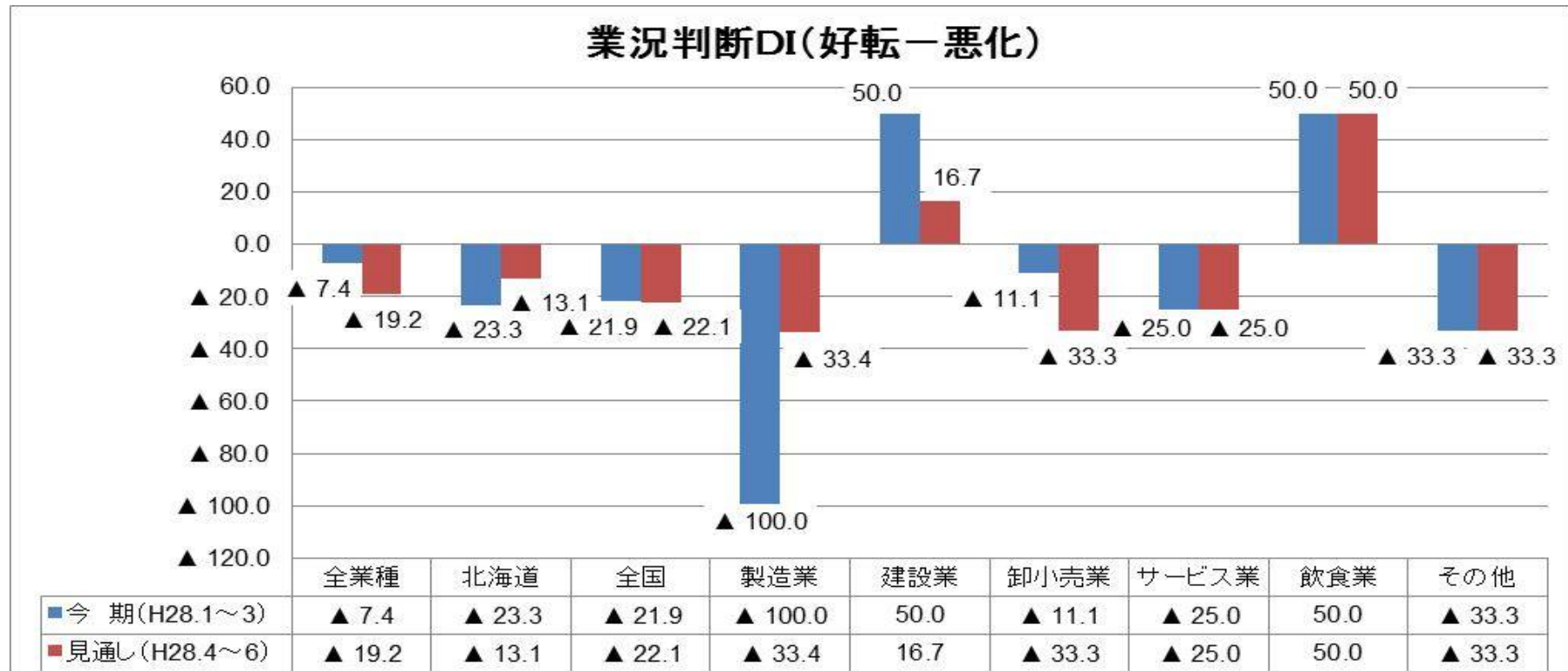
平成28年6月

名寄商工会議所

調査要領

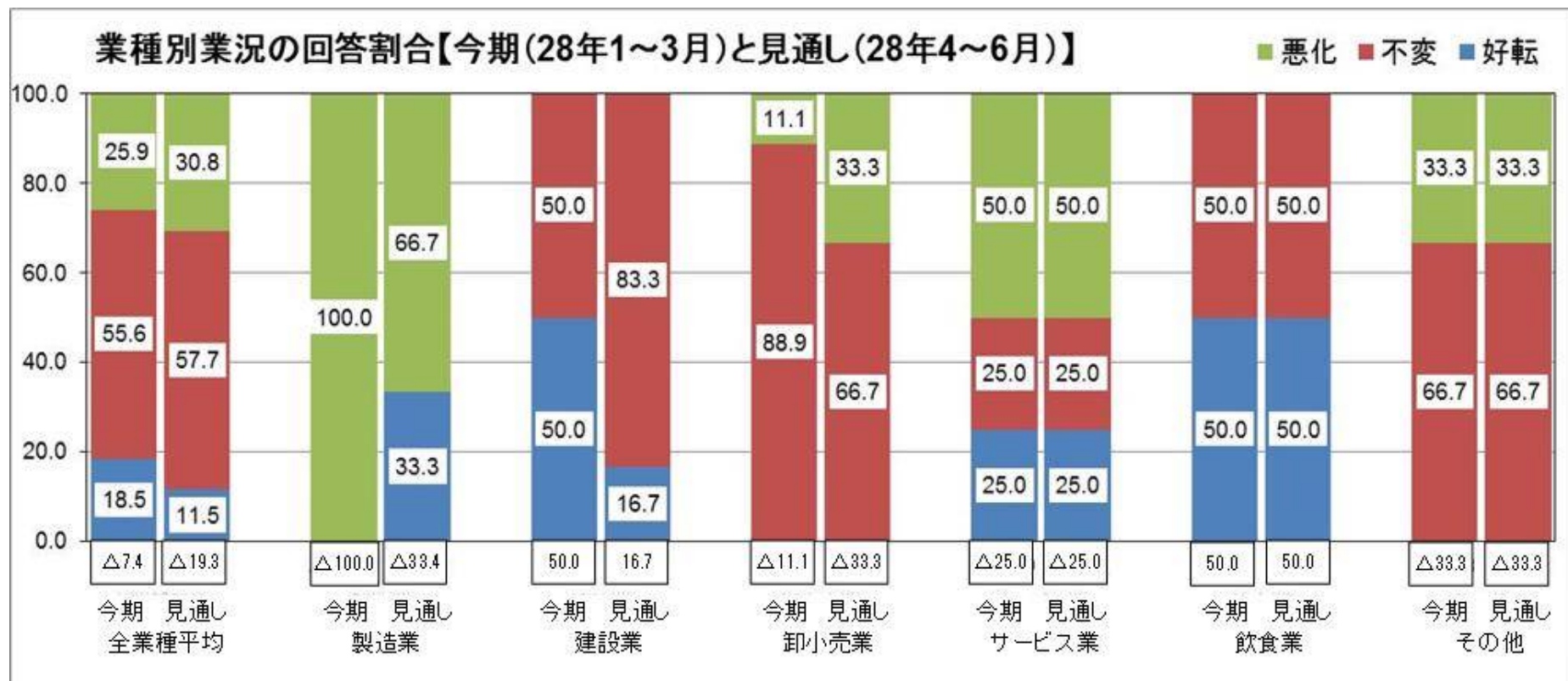
調査対象期間	平成28年1～3月期の実績及び平成28年4～6月期の見通し
調査内容	製造業、建設業、卸小売業、サービス業、飲食業、その他の6業種に分類し、売上高、採算、仕入、従業員、業況、資金繰りの6項目について調査を実施。
調査対象	当所議員、正副部長及び青年部会員企業（一部抽出）70社【回収率38.6%（27社）】

調査結果 第1回目調査のため、今期と見通しによる比較。



DI：「好転」の回答企業と「悪化」の回答企業の差

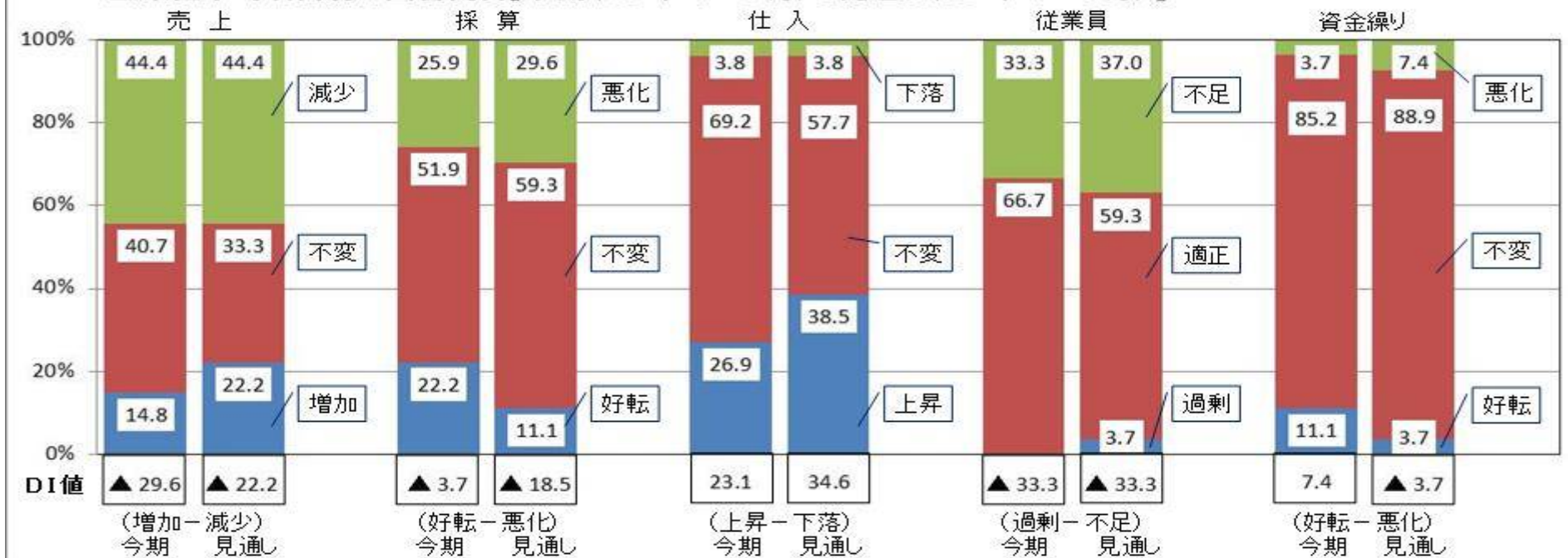
- ・今期では、全業種平均で 7.4ポイントとなり、建設業(冬期の仕事確保が出来た、全体的に人手不足による受注増)、飲食業(従業員対策、在庫の整理)ではプラスとなっている。
- ・見通しでは、全業種で今期より 11.8ポイントの 19.2ポイントとなり悪化する見込みである。
- ・北海道(道商連調査)の景気と比較すると、今期は14.9ポイント上回っているが、見通しでは 6.1ポイント下回っている。
- ・全国(日商調査)の景気と比較すると、今期は14.5ポイントと上回り、見通しでも2.9ポイント上回っている。



DI: 「好転」の回答企業と「悪化」の回答企業の差

- ・製造業～今期「悪化」100%となり、人口減少やインターネット、地方への受注による影響が大きい声。見通しでは、冬期間休業だった為見通しでは好転が見込まれるとの声。
- ・建設業～今期「好転」50%と、冬期間の仕事を確認できたとの声。見込みでは「好転」16.7%と工事受注の減少との声。
- ・卸小売業～今期・見通しで「不変」の割合が多く。「悪化」では売上減少との声。
- ・サービス業～今期・見通しで「悪化」が50%と経済状況の悪化との声。「好転」では夏場に向けて観光など夏場の動きが活発になるとの声。
- ・飲食業～今期・見通しで「好転」50%と外税と内税を使い分けるなどとの声。経営改善への努力が見られる。
- ・その他～今期・見通しで「不変」の割合が多い。「悪化」では少子化の影響との声。

全業種平均項目別の回答割合【今期(28年1~3月)と見通し(28年4~6月)】



売上DI

今期 29.6ポイントとなるが、見込みでは 22.2ポイントと、7.4ポイントマイナス幅が縮小。

[増加の要因]

- ・冬期間の仕事が確保（建設業）・商品の購買意欲変化の対応（サービス）・適正価格に変項（飲食）

[減少の要因]

- ・人口減少（製造、卸小売・その他）・新築物の減少（建設）・取引先の減少（卸小売）

採算DI

今期 3.7ポイントのとなり、見込みで 18.5ポイントと、14.8ポイントマイナス幅が拡大。

[好転の要因]

- ・経費圧縮による粗利益確保（製造、卸小売）・観光客等夏場の動きに期待（サービス）・外税と内税の使い分け（飲食）

[悪化の要因]

- ・原料・仕入の値上げ（製造・卸小売）・人口減少（製造）・売上の減少（卸小売）・注文の減少（卸小売・サービス）

仕入DI

今期23.1ポイントとなるが、見込みでは34.6ポイントと11.5ポイントと、見込みで価格上昇と回答する企業が増えた。

[上昇の要因]

- ・メーカーからの一方的通告（製造）・仕入単価、物価の上昇（建設、卸小売・サービス）・円安と消費税（飲食）

[下落の要因]

- ・売れず不読化（卸小売）

従業員DI

今期及び見込みで 33.3ポイントとなるが、見込みで過剰と回答する企業が増加。

[不足の要因]

- ・3Kのイメージがまだ強い、PR不足（建設）・業界全体が不足、将来を考えての増員が必要（建設）
- ・雇用ミスマッチ、求人するも採用なし（卸小売）・募集しても来ない、適任者やアルバイト（卸小売、サービス、その他）
- ・建設業の若手離れ（サービス）・退職に伴う不足（その他）

資金繰りDI

今期7.4ポイントとなるが、見込みで 3.7ポイントと、11.1ポイントマイナス幅が拡大。

[好転の要因]

- ・経費圧縮により支出額が大幅に減少し資金繰りは余裕ができそう。（製造）
- ・冬期間の仕事が確保できた為（建設）・適正価格として安売り競争をしない他店にない商品を作る（飲食）

[悪化の要因]

- ・回収の悪化（卸小売）